

「JEITA IT×シェアリングエコノミー アイデアソン」 開催報告

ソフトウェア事業委員会／ソフトウェア事業戦略専門委員会では、日本のIT関連産業のグローバル市場における競争力を分析し、市場競争力の向上に向けて、我が国における情報利活用の現状や課題等について調査・検討を進めております。昨年度の調査検討においては、2011年3月の東日本大震災の教訓を踏まえた「安心・安全」、「快適・便利」な社会の実現を目指す姿と捉え、社会インフラの情報利活用による震災への備えと消費者の利便性を実現する環境整備を課題と設定し、安心・安全かつ快適・便利なスマート社会実現に向けた施策を検討してきました。

本年度は、「快適・便利」な社会の実現に向けた新たな社会動向である「シェアリングエコノミー」に着目し、当該分野の発展にソフトウェア産業が寄与するための方策を検討しております。本年度もアイデアソンを実施した結果、シェアリングエコノミー分野におけるサービスアイデアやIT・ソフトウェアの活用可能性のアイデアを広く募ることができ、成功裏に終了いたしました。

日 時：平成29年11月6日(月) 10:00～18:00

場 所：JEITA 402-403会議室

参加者：20名(5名×4グループ)



グループごとに分かれてアイデアを出し合う参加者

①特別講演

シェアリングエコノミーが
社会を変える

講師：石山 アンジュ 氏

(内閣官房 シェアリングエコノミー伝道師)



②参加者によるグループディスカッション





③ 成果発表

■グループA

サービス名 ユニバーサル・トリップ・サービス

自家用車、トラック、船舶等の乗り物を対象としたライドシェアサービスを提案しました。

■グループB

サービス名 寂しいあなたに公共施設

都心に住む单身者を対象として、公共施設等のキッチンを貸し出すサービスを提案しました。

■グループC

サービス名 e-suit

不要になったスーツや、スーツメーカーが下取りしたスーツ等を共有するサービスを提案しました。

■グループD

サービス名 おもいやりシェア

地方で家族と離れて居住する高齢者を対象とし、高齢者と地域の繋がりを強化することを目的としたサービスを提案しました。



④ 審査結果

■グループA【最優秀賞】

様々な移動手段を対象としている点が面白い。多様な主体を巻き込んだ総合的なサービスになるので、実現した際の影響も大きいのではないかと感じております。

■グループB【特別賞】

キッチンに着目した点は新規性があると感じた。利用者は独身に限らず、家族のイベントや仲間内でのパーティーの際にも活用できるサービスであると感じた。利用者の楽しみ方としてInstagramへの投稿を念頭においている点は、最近の若者のニーズを押さえていると感じております。

■グループC

モノのシェアはシェアの対象物として様々な選択肢があるが、その中でスーツに絞って検討したため、具体的なサービスの提案になっていると感じた。体型の変動に応じてスーツを買い換えざるを得ない人も多いため、ニーズは高いと思われます。

■グループD

国家的な課題となっている高齢者問題について真剣に検討している点が良かった。中間発表の際にはベテランのスキルを活用するサービスを考えているように感じたため、スキル活用の視点をもっと押し出しても良いかもしれません。